



なぜ?なに?を 農家さんに聞いたよ!

JA山口中央いちご専門部会 部会長 田中 明政さん

食べる人のことを考えて、農薬をあまり使わないようにしているんだってー!



「社会人としての責任感を持って、消費者のみなさんに安心して食べてもらうために、農薬の使用を減らしています。」



Q こうせつさいはい「高設栽培」って?

従来のいちごづくりは、ほとんどが腰をかがめての作業で、体への負担も大きく重労働となるのが課題でした。そこで、いちごを腰の高さに植えて、立ったまま楽に作業できる高設栽培と呼ばれる方法が開発されました。近年では、山口県内でも全域で導入する人が増えています。



山口県で独自に開発された高設栽培システム「らくラック」は、リサイクルされたプラスチック資材を利用するなど、環境にも農家の人にもやさしいシステムです。



従来のいちごづくりの収穫風景。

Q 安心・安全ないちごづくりのためにしていることは?

化学農薬の使用をできるかぎり控える栽培を心がけています。害虫の発生を抑えるために、粘着シートを利用したり、いちごの葉につく害虫のハダニは天敵を用いて駆除するなど、部会全体で安心・安全ないちごづくりに取り組んでいます。



農機まで光が当たって真っ赤に色づくように反射材も用いられます。



受粉にはミツバチが活躍!花全体にしっかり花粉がつくと、形のいいいちごが実ります。ミツバチが活躍しやすい温度管理にも気を配っています。



冬は日照時間が短いため、夜、照明をつけたり、日陰を作ったりして、いちごの生育環境を整えています。

Q おいしいいちごをつくるには、どんなことが大切なの?

まず、根からしっかりと養分を吸収できるように、根元の茎をできるだけ太く育てます。しっかりと育った茎ができれば、葉も大きく育ちます。大きくなった葉に太陽の光がたつぷり当たると栄養が蓄えられ、おいしくて大きないちごが実ります。つまり、おいしいいちごづくりに、太陽の光をたっぷり当てるための管理がとても大切。そのほかにも、ハウス内や土の温度、適度な水やりや施肥(肥料をやること)の管理も大切な作業です。



光がよく当たるように葉の下からいちごの実を出す作業(玉出し)や、新しい葉に養分がいくように枯れた葉を採る作業(葉かき)も、おいしいいちごづくりに欠かせません。



葉や実の日光が充分当たるように、いちごの生育環境を整えています。



安心・安全!甘くておいしいいちごづくり

子どもや大人に大人気な「いちご」にはビタミンCがたっぷり!県内有数の産地の一つ、山口市のいちごづくり名人の農家さんに安心・安全で甘くておいしい「いちご」づくりについて、探検隊の皆さんが取材してきました!



「いちご」キャラクター「いちごちゃん」

Q いつ植えて、いつ収穫するの?

いちごの生育期間は、9月以降にハウス内に植えつけ、早いものでは10月に花が咲き、11月から収穫が始まります。その後1カ月おきに、また花が咲いては収穫...と5回程繰り返し返されて、6月頃まで収穫は続きます。



収穫後はすぐに、いちごの大きさで分けてパックに詰めます。サイズによって詰め方も異なります。



山口市立大蔵小学校5年生